

定期上映会 戦傷病者の証言～利き腕の受傷編～

利き腕に不自由を抱えながらも、それを克服して生きてきた戦傷病者の証言映像を上映します。

上映場所：しょうけい館 1 階 証言映像シアター
上映期間：2023 年 1 月 5 日（木）～2月7日（火）
2月15日（水）～3月12日（日）
上映時間：10：00～17：00

生まれ育った故郷に恩返し

毎時 0 分
より上映

昭和 17 年 12 月 8 日、独立混成第 3 旅団歩兵第 7 大隊第 1 中隊に編入。戦地で自らが書いた遺書は、60 数年経過した現在でもそらんじられるという。昭和 19 年 9 月 12 日、中国山西省忻県で右腕に銃撃を受けた。昭和 21 年 5 月、故郷に戻り結婚し、農業を継いだ。利き腕である右腕の傷が痛むために、妻に真綿を巻いてもらい、戦後の厳しい時代を切り抜けた。現在では、隈戸川ひまわりの植樹など、自分が生まれ育った故郷へ恩返しをしている。

16 歳で右手を失って

毎時 14 分
より上映

14 歳で普通海員養成所に入所。3 ヶ月の訓練で輸送船「黄海丸」の乗組員となり、南方への物資輸送に携わる。昭和 19 年、ラバウル近海を航行中に敵機の攻撃により撃沈。生き残った仲間と 1 ヶ月以上島々をさまよった末、何とか辿り着いた海軍病院内で空襲により右手を失う。利き手を失いながらも、戦後は夫婦で協力しながら印刷業を営み、その技術で評判となった。「手がないと思っていない。ただ短いだけ」と話す前向きさが自身を支えてきた。

字を書く手を受傷して

毎時 30 分
より上映

昭和 18 年に学徒出陣で海軍に入団し、20 年 2 月 23 日、小笠原諸島父島で米軍の空襲を受け機銃弾により右手と右足を負傷した。直ちに近くの壕の野戦病院で治療を受けた。内地に還送され病院でリハビリに励んだ。利き手の障害を克服して、戦後は新聞記者として働いた。

受傷が変えた人生～苦悩、そして挑戦～

毎時 40 分
より上映

名古屋の軍需工場に勤務。昭和 19 年 12 月、徴兵の 1 年繰り上げで陸軍に入営。20 年 7 月 18 日、中国通州の飛行場で敵機による機銃掃射を右腕に受ける。北京の陸軍病院に搬送されるも、局部麻酔で右腕を切断される。12 月に内地還送となり、療養の後、帰郷する。亡き兄に代わり家を継ぎ、農業に努めるもきき腕が使えないため、田植え、稲刈りなど、苦労は絶えなかったが、何事にも前向きに生きた半生を語る。

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。